

当院における CKD-MBD 管理の取り組み

医療法人財団はまゆう会王子病院

池間 郁枝、大谷 麻岐、渡邊 千代子、瀬川 賀世子、箆島 明彦、田中 孝夫、市丸 喜一郎

【はじめに】当院では平成 20 年から平成 23 年までの血清 Ca・P の 9 分割図の基準値内である患者が平均 54.3%であった。今回、各部門でチームを立ち上げ患者教育を行ったので報告する。

【目的】CKD-MBD の患者教育を行い、ガイドラインの基準値内である患者が増加する。

【方法】患者教育は CKD-MBD ニュースを掲示、勉強会の開催などを実施した。

当院維持透析患者 214 名で年 24 回の採血で P6.0mg/dl 以上になった回数を 4 段階に分類し、平成 23 年と平成 24 年の教育前後で比較した。また、P6.0mg/dl 以上の回数が 5 回未満を P コントロール良好群、5 回以上を不良群とした。

【結果】

平成 23 年 P コントロール不良群は 44%、平成 24 年の不良群は 42%とやや低下した。平成 24 年 12 月の時点でガイドライン基準値内である割合が 60.1%と上昇した。

【結語】患者教育を行うことで一定の効果はあったと考える。今後も継続した患者教育を行い各部門で包括的な関わりが重要である。